
「始まり」

鈴籠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「始まり」

【Nコード】

N6752Y

【作者名】

鈴籠

【あらすじ】

とある学校に転校してきた蓮と怜
その学校は人々を傷つけている魔物を退治する能力がある者しか入れない魔物退治育成学校だった！！
蓮と怜には不思議な力があるらしいが…

「始まり」

「やっぱなっつかしいな…なあ怜？」

とある学校の前でつぶやく男の子が二人

「そっやね蓮」

そう言つて怜は蓮の隣に立つ

「あゝ…？あなたたち」

学校の前をうるちよろしているのを気にしてか先生が声をかける

「はい？」

二人は同時に答えた

「こんな所で何をしているの？」

先生は言つた。

「あつ！ごめんなさい」

怜は頭をさげた

「俺達今日からここに転校してきたんやけど…道分からんくて」

蓮が怜に続けて言つた

「ああそっなの？じゃあついてきて」

先生はそう言いながら歩きだした

「ここが校長室よあなたたちのクラスを聞いてきてあげるから待つてて」

先生はそう言つてドアをノックした

「失礼します」

先生が校長室に入っていく

取り残された二人廊下を歩く人たちはみんな不思議そうに歩いている
当然だろう。

この学校ではつい最近入学式が終わったばかりらしい
なのにこの時期に転校生など珍しさに決まっている。

二人がそんなことを思っている…

「お待たせ！聞いてきたわよあなたたちのクラス」
先生は笑顔で言った

「「ありがとうございます」」

二人は言った

「あなたたちは1年2組よ」

先生は自分を指さした

「それで担任は私三日月梨紗よ、よろしくね！」
みかつきりさ

梨紗は明るい声で言った

「1年2組はこっちよ蓮君、怜君」

梨紗は蓮達に背を向けて歩きだした

「それじゃあここで待っていて、私が呼んだら入ってきて？」

梨紗は人差し指を立て「わかった？」と言った。

「わかってるっちゅーねん、先生」

蓮は反抗口調で言った

「それならいいわ」

といって梨紗は教室に入る

「はいっ皆さんおはようございます」

梨紗はみんなに聞こえるように言った

「「「おはようございます」」」

教室からみんなの声が聞こえる

「今日はこのクラスに転校生がきています」

梨紗は皆に告げた

「入ってきなさい」

梨紗は扉の向こうにいる蓮と怜に聞こえるように言った

ガチャ…バタンッ

扉を開けて蓮と怜が入ってくる

「この子達が今日からこのクラスの一員になる…」

梨紗が蓮にチヨークを渡す

すすかこれん

「鈴籠蓮って言うんやよろしゅう!!」

蓮は黒板に自分の名前を書き自己紹介をした

蓮が怜にチヨークを渡す

すすかこれい

「と、鈴籠怜やよろしゅうな!!」

怜も蓮と同様に自己紹介をした

「それじゃあ自己紹介も終わったとこだし・・・あなた達の席は」

…窓際の二つよ!」

そういつて梨紗は窓際の二つの席を指さした

ここから少年たちの物語が始まる

「始まり」（後書き）

読んでくださりありがとうございます（´・ω・´）

はじめての投稿です

そして駄文です（´・ω・´）

こんな駄文なのに読んでくれた皆様に感謝感激です（*´・ω・´）

次話も時間がかかるかもしれませんが書きたいです（´・ω・´）

なので

こんなんでよかったら次話も読んでくれたら嬉しいです。

コメントとかも参考にするので書いてくれたら感激です（´・ω・´）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6752y/>

「始まり」

2011年11月20日17時20分発行